

市域における数値目標（目標数値の考え方と算出方法）

□温室効果ガス排出量 削減率

環境基本計画において、2006（平成 18）年度比で、2018（平成 30）年度までに 14%削減するという目標を立てています。目標年度の 2030（平成 42）年度、2050（平成 62）年度の 2 つは、環境モデル都市アクションプランに掲げる目標です。中期目標として、2006（平成 18）年度比で、2030（平成 42）年度までに 35%削減、長期目標として、2006（平成 18）年度比で、2050（平成 62）年度までに 70%削減するという目標を掲げており、参考に記載しています。

□エネルギー消費量 削減率

エネルギービジョンにおいて、2006（平成 18）年度比で、2018（平成 30）年度に 5%、2030（平成 42）年度に 20%削減するという目標を立てています。

□再生可能エネルギーの普及

エネルギービジョンにおいて、2011（平成 23）年度比で 2018（平成 30）年度に普及率 16.5%、2030（平成 42）年度に普及率 30%という導入目標を立てています。

普及率は、太陽光発電の設置基数を一戸建て件数で除したものとなります。一户建て件数は、28,180 件（総務省平成 20 年住宅・土地統計調査）としています。

□太陽光発電によるエネルギー自給率 目標数値はどう出している？

エネルギービジョンにおいて、2030（平成 42）年度の電力需要見込みに対する太陽光発電による自給率を 15%とするという目標を立てています。目標数値は下記の方法により算出しています。

①2030（平成 42）年の電力需要見込み

2012（平成 24）年度市域の電力使用量の 80%の数値とする。

$413,117,311 \text{ kWh/年} \times 80\% \doteq 330,493,849 \text{ kWh/年}$

②目標自給率 15%

③太陽光発電設置容量 1kW あたりの年間発電量

1,063 kWh とする。

$① \times ② \div ③ = 46,636.00879 \dots \doteq 46,700 \text{ kW}$

□ごみ排出量

・家庭系ごみ排出量 2007（平成 19）年度比で、1 人 1 日あたり排出量を 2018（平成 30）年度までに 15%削減するという目標を立てています。

・再資源化率 2007（平成 19）年度比で、再資源化率を 2018（平成 30）年度までに 30%にするという目標を立てています。

- ・事業系ごみ排出量 2007（平成 19）年度比で、年間排出量を 2018（平成 30）年度までに 6,721 t に削減するという目標を立てています。

□公共交通

環境基本計画において、2007（平成 19）年度を基準とし、2018（平成 30）年度を目標年とし、

- ・鉄道利用者数 現状維持から 0.5%増に。
- ・路線バス利用者数 10%増に（生駒駅・東生駒駅発着路線のみ）。
- ・コミュニティバスなどの代替交通の新規路線を複数ルート実現 といった目標を立てています。

□竜田川の水質

竜田川の水質を、4つの観測地点ごとの年間平均でBOD（生物的酸素要求量）5mg/L以下になる目標を立てています。

□環境活動 参加人数

2009（平成 21）年度からの累計が、2018（平成 30）年度を目標年度で、2007（平成 19）年 10月現在の生駒市の総人口 11.7万人になることを目指しています。